

《症例報告》

^{123}I -BMIPP 心筋 SPECT が虚血動態の変動の評価に
有用であった高度心筋虚血の一例

弓場 達也* 伊藤 一貴* 田邊 卓爾* 堂上 友紀*
足立 芳彦* 加藤 周司* 東 秋弘** 杉原 洋樹**
中川 雅夫**

要旨 今回、われわれは心筋虚血の病態評価に心筋脂肪酸代謝を画像化する ^{123}I -BMIPP 心筋 SPECT (BM) を用いた反復検査が有用であった 1 症例を経験した。患者は 66 歳の男性で、1999 年 9 月より労作時の胸痛が認められるようになった。同年 10 月に施行された BM の初期像では心尖部に軽度の集積低下所見、後期像では高度な再分布現象が認められた。冠動脈造影では左前下行枝の近位部および第一対角枝の中枢部に 99% 狭窄が認められたが、造影剤アレルギーのため経皮的冠動脈形成術は施行できなかった。薬物療法により症状は安定し、2000 年 3 月の BM では再分布現象は軽度になった。2000 年 9 月の BM では初期像の集積低下は高度になり、逆再分布現象が認められた。2001 年 2 月に胸痛が出現したため BM を再検したが、初期像では軽度の集積低下、後期像で再分布現象が認められた。この期間、心電図および $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -tetrofosmin 心筋 SPECT では変化は認められなかったが、BM では経時的に劇的な変化が認められた。心筋虚血の評価に心筋脂肪酸代謝を反映する BM の二回撮像法が有用なことが示唆された。

(核医学 39: 143-148, 2002)